

⑤インターネットによる差別事件

インターネット上の掲示板では、各地の被差別部落の地名や所在地などの情報を興味本意で書き込むなどが常態化しているだけでなく、個人名の書き込み例も報告されている。それらは必ずしも正確な情報ではなく、またその地名を一部伏せ字にしたりアルファベット表記にしたり、削除されないための小細工がなされている。

全国の部落の地名を寄せ集めてインターネット上に画像ファイルを公開した、いわゆるインターネット版部落地名総鑑の存在も確認されていたが、正しい情報と誤った情報が入り混じっているにもかかわらず、「部落地名総鑑」の名のもとに掲載された情報がすべて正しいものとして流通することで、情報の真偽にかかわらず部落と「みなされる」差別が作りだされる恐れがある。

掲示板だけでなく動画投稿サイトも利用されており、兵庫県や和歌山県をはじめ各地の被差別部落のようすを撮影した動画が掲載されていることが確認されているほか、次の・で述べる奈良県の水平社博物館前での差別街宣事件では、その模様を撮影した動画まで掲載して、誰もが見られる状態にされていた。